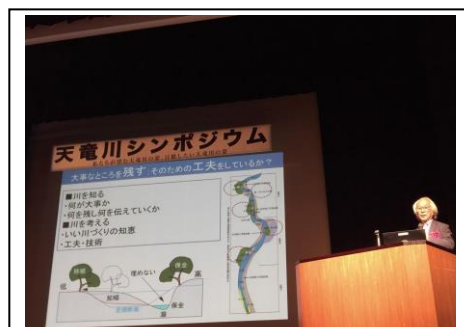


### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	天竜川シンポジウム
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人 天竜川ゆめ会議 長野県駒ヶ根市赤穂 14616-67 (株緑地計画内)
事業区分	⑤環境保全・景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	¥899,000 円 (うち支援金: ¥670,000 円)

#### 事業内容

昨年実施した天竜川シンポジウムのパネルディスカッションにおいて、「いい川とは何か」、「なぜ住民は川に行かないのか」等の議論を行った。行政担当者からは、『日常の川を見に川に行って癒されてほしい。そして、有事の変わり果て暴れる川に危険を感じ、避難行動を起こして欲しい。』と訴えた。それを受けて、本年度はいい川を作るためには、災害時の対応も必要なはずであるといった思想に立ち、平成30年に改訂された「美しい山河を守る災害復旧基本方針」の考え方を学び、災害復旧時でも河川環境に配慮した川づくりをどのように進めたらよいかを専門家を招いて議論した。まさに、千葉の災害と19台風で甚大な被害が発生したタイムリー時期の開催となった。



【会場の風景】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

通常の災害復旧であれば、被災箇所にブロック積みを配置し、根固めブロックを並べて3面張りの水路を構築して終わりになるであろう。今回のシンポジウムでは、そこで一步踏み込んで、河川環境をプラスして、それぞれの河川の特徴特徴を大切に保全し、その地域や風景にマッチした河川を復旧することの大切さを議論することができた。参加者の皆さんが、このシンポジウムを通して、景観が豊かで自然環境にあふれる長野県の、川を中心とした風景を残した災害復旧を進めてくれることを切望する。

- ①市民と行政の協働による実行委員会形式の組織運営
- ②多自然川づくり推進に向けた研修
- ③環境に配慮した災害復旧工法の学習

#### 【目標・ねらい】

#### ※自己評価 【A】

【理由】地域住民と国土交通省・長野県建設部との実行委員会組織による役割分担が良好に働き、特に景観・自然環境に配慮したタイムリーな災害復旧工法について研修が成功した。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

災害復旧等の社会資本整備には、土木技術者や専門的な知識を有する行政担当者にあたる人が多いと思われる。また、設計や工事に係わる市民も専門家が対応すると思われる。しかしながら、それらの社会資本のエンドユーザーは一般の市民である。一般の市民が、地域の景観や河川環境に興味を持って要望することができる機会を今後は増やしていける活動を進めたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある